

ンター」にご相談下さい。もしも、相談センターに相談しなければならぬ症例が多数存在するようになったとしたら、相談センターや指定医療機関も一杯になってしまいます。このような場合には、新型インフルエンザの地域蔓延期の計画に沿って、軽症であれば、指定医療機関だけではなく、いろいろな医療機関で診療し、軽症であれば自宅で療養し、重症になれば指定医療機関で入院治療を行うというように、医療体制全体を変更していくことになります。

地域における対策としては、感染者を可能な限り減らすことです。これは、社会距離拡大策 (Social distancing) と言われるもので、人と人の間隔を広げることによって

接触密度を下げ、感染伝播を減少させようとするのです。これは、できるだけ人との接触を避け、人混みに行かないということから、大規模集会の中止、人がたくさん集まる場所 (公共施設や映画館など) を閉鎖してしまったり、学校の休校、企業の事業所における、時間差勤務や在宅勤務、閉鎖などの感染予防対策が含まれます。しかしながら、これらを行うことは国民の社会生活に大きな影響があります。地域の実情に応じて考えていくことが大切でしょう。

※本原稿は2月20日時点の状況に従って記述しておりますので、今後の状況の変化にご留意ください。

(臨床研究部長 谷口 清州)

5病棟の生活のひとコマ 56

2月の誕生会は、クレールのおふたりにピアノとフルートの演奏を披露していただきました。「ホールニューワールド」などを演奏していただき、癒しの時間でしたが、「さんぽ」は、みんなでうたって大盛り上がりでした。

3月はコーラスを披露していただく予定です。お楽しみに!

(児童指導員 白松 美優)



通所支援事業のひとコマ

通所支援事業は、2月もイベントがいっぱい?!

2月のイベントといえば、皆さん何を思い浮かべるでしょうか。

通所支援事業では、「節分」と「バレンタイン」のイベントをしました。「豆まき」では、段ボールで作ったオニに豆(お手玉)を投げ、節分の行事を味わいました。節分、実は立春(りっしゅん)・立夏(りっか)・立秋(りっしゅう)・立冬(りっとう)の前日にあたる日をさすので、年に4回もあるってご存知でしたか? 旧暦の冬から春に変わる時期(立春)が、ちょうど一年の始まりにあたるので、特に重要視され、現在でもなお、新年を迎える行事として、2月3日(立春前)だけが節分の風習として残っているようです。

もう1つのイベント「バレンタイン」では、家族に「ありがとうの気持ち?」を表現しました。普段から「ありがとう」という気持ちを持っていても、なかなか表現することが難しい間柄である「家族」だからこそ、バレンタインデーに「ありがとう」を伝えるチャンス?!と思い、カードに気持ちを表現しました。カードには「ありがとう」や絵を芸術的に?!気持ちを描きました。ご家族はとっても喜んでくださいました♡

イベントは普段なかなか味わえない気持ちを味わえるチャンスです。ぜひ、季節の行事を皆さんも楽しんでみませんか???

(主任児童指導員 丸澤 由美子)



やまばとギャラリー information



3月といえばおひなさま。ということで、「おひなさまとおだいりさま」に包装紙で着物をデザインしました。患者さんにとって、のり付けすることは難しいのですが、今回は多かつたため、職員と一緒にがんばってくれました。「あげきのおひなさま」「ふたみのおひなさま」もブームのようですが、やまばとギャラリーのおひなさまも負けていませんよ。ぜひ季節の雰囲気味わいに来てください!

(児童指導員 白松 美優)

